

平成21年度 第5回 宇都宮市行政改革大綱策定懇談会 会議記録

◎日 時 平成22年2月22日（月） 午後5時～午後7時

◎場 所 宇都宮市役所 14A会議室

◎出席者 【委員】

青木委員，井澤委員，石島委員，上山委員，金枝委員，菊嶋委員，齋藤公司委員，齋藤高藏委員，添田委員，遠井委員，中村委員，藤本委員，松本委員，水沼委員，和田委員（50音順）

【事務局】

行政経営部長，行政経営部次長，行政改革課長，行政改革課課長補佐，行政改革課係長，行政改革課担当

<※ 欠席 井原委員，野崎委員，森崎委員>

◎会議経過

1 開 会

2 会長あいさつ

水沼委員（会長）

- ・ 大変お忙しい中，お集まりいただきありがとうございます。
- ・ この懇談会，これまで4回の会議を重ねてきたが，本日はこれまでの論点，議論を整理しつつ，大綱案と，懇談会から市長に提出する提言書案を取りまとめる方向で進めたい。
- ・ こういう方向で進むなら市も安心だと市民に思ってもらえる大綱にできるよう，委員の皆さんからは，是非，積極的な御意見をいただきたい。

3 市長あいさつ

市 長

- ・ 行政改革大綱の策定に係る計5回にわたり熱心に議論をいただき，深く感謝したい。
- ・ 本市の税収は，昨年度に比較して57億円の減少，一昨年との比較で114億円の減少となっており，来年度予算は歳入面で厳しい内容となる見込みであるが，これは景気低迷の影響により，市内の主力企業の法人市民税が大きく減少した影響によるものである。

- ・ 景気の低迷や人口減少の流れにあることを考えれば、今後は、税収に頼った予算のやりくりではなく、景気の変動に左右されない磐石な行政運営の体制を知恵を絞って確立しなければ、乗り切れない時代になる。
- ・ 行政改革大綱策定懇談会の委員の皆様からの御意見・御提言を十分に踏まえた大綱とし、職員が一丸となり、努力していきたい。
- ・ これからの都市間競争に宇都宮市が生き残るためには、市民の皆様を知恵が不可欠になるので、引き続き、御協力をお願いしたい。

4 前回の懇談会における主な委員意見について 【資料1, 参考資料1】

<事務局資料説明>

(質疑なし)

5 議 事

(1) 第4次宇都宮市行政改革大綱の策定について 【資料2】

(2) 第4次宇都宮市行政改革大綱(案)について 【資料3, 参考資料2~3】

<事務局資料説明>

委員

- ・ 一点目。副題中の「うつのみやネクスト」について。大綱を策定する度、その時点では新たな改革の考え方を整理するわけで、厳密に言えば、策定するたびに「ネクスト」の内容を整理するということになる。したがって、今回の大綱であることを強調するのであれば、例えば、「うつのみやネクスト2014」など、時期を表現するものが欲しい。
- ・ 二点目。平仮名の「うつのみや」の使い方について。市の名前を平仮名で表現するというのは、今ではある種のトレンドになったような気がするが、自分の感覚では受け入れにくい部分がある。あえて平仮名で表現する基準、理由の説明がほしい。
- ・ 三点目。副題中の「実力都市・宇都宮のさらなる躍進に向けて」について。副題にこの表現を使うのであれば、基本目標の中で使われている「共創」と「選択・集中」による持続可能なまちづくりへの基礎の構築をそのまま使ってはどうか。つまり、基本目標をそのままサブタイトルでも使ってはどうか。

事務局

- ・ 御質問の一点目及び三点目。市民に分かりやすい、印象に残る大綱とするため、副題の表現は極力、端的・簡潔なものとしていきたい。
- ・ 御質問の二点目の「宇都宮市(漢字)」と「うつのみや(平仮名)」の使い分けについて。副題

やキャッチフレーズは、大綱の内容を理解しやすくするために設定しているものであり、この中で市名を出す場合には、柔らかい表現とするため、平仮名で記載した。

委員

- ・ 副題中の「実力都市」という表現は、どのような意図で使っているのか。

事務局

- ・ 厳しい社会経済環境の中でも、市民の方が安心して暮らすことができる施策・事業を、途切れることなく、継続的に実施していけるような、活力やたくましさを備えた都市を目指していきたいという気持ちを込めている。

委員

- ・ 副題中の「実力都市・宇都宮のさらなる躍進に向けて」の表現について。これは、現在も既に「実力を備えた都市」であるが、今後、さらに躍進・発展するということ表現したものだと思う。確かに、「実力都市」という表現はいい言葉だと思うが、市が自らを表現する言葉としては、違和感を覚える市民もいるかもしれない。「実力都市に向けて」、「躍進都市に向けて」など、これから実力を備えていくという表現にしてはどうか。

委員

- ・ 都市の実力は、「対外的」と「対内的」の二通りから評価できる。
- ・ 市外や県外から見た「対外的な評価」としては、宇都宮市が実力を備えた都市であることは間違いない。
- ・ しかし、市民から見た「対内的な評価」としては、都市としての成熟度がまだ低いという点や、非常に控え目な市民性を持ち、自らを強く主張することを嫌がる土地柄にあるという点などから、実力のある都市という声はあまり聞かれない。

委員

- ・ 実力都市であることは理解できる。インフラ面でも新幹線が停まる駅でもあり、また、複数の高速道路の路線のインターチェンジが存在する県庁所在地というのは全国を見ても多くはない。

委員

- ・ 「ある」を挿入し、「実力ある都市・宇都宮のさらなる躍進に向けて」としてはどうか。

委員

- ・ 宇都宮市の大綱であることは明らかであるのだから、副題から「宇都宮」という文字を消して、「実力都市へ向けて」や「さらなる躍進へ向けて」としてもいいかもしれない。一般市民に分かりやすく、受け入れられる大綱とするためには、表現はシンプルな方がいい。

委員

- ・ ネクストは基本的に形容詞であるから、「うつのみやネクストシティ」、「うつのみやネクストタウン」、「うつのみやネクストコミュニティー」、「うつのみやネクストステージ」、「うつのみやネクストパワー」など、後ろに名詞を付けた方が、読み手が大綱に抱くイメージに膨らみが出るのではないか。後ろの名詞が省略されているため、かえって不明確になっている気がする。

事務局

- ・ ネクストの後ろに確固たる名詞を付けない方が、想像の余地が広がり、膨らみが出るという判断から、今回の資料の通りの表現とした。
- ・ また、ネクストは形容詞として使用することが一般的であるが、「次なるもの」という意味で名詞の用法もあり、今回はこの意味で使用している。
- ・ 「次なる世代」のために、これまでの成果も踏まえながら「次なる改革」に前向きに取り組むという意気込みを市民にPR、発信する際、「うつのみやネクスト」と端的に表現できることを重視して、言葉の検討を行った。

委員

- ・ 独立行政法人や国立大学法人の中期目標で「ビジョン」という言葉をよく見かける。今回の大綱の副題でも使える表現ではないか。例えば「うつのみやネクスト」を「宇都宮市ビジョン2014」に置き換えることもできるのではないか。

委員

- ・ 「共創」という言葉は、宇都宮にあるさまざまな資源を生かしながら、市民と行政が力を合わせ、真の実力都市を創造していくということを表現しており、とてもいい言葉だと思う。
- ・ この「共創」を強調するのであれば、「うつのみやネクスト」 共創する実力都市を目指す」としてもいいかもしれない。

委員

- ・ 宇都宮市が、今現在、既に実力都市なのか、それとも将来そうなるのかという点では意見が別

れるので、例えば、「「うつのみやネクスト」 躍進する実力都市を目指して」とすれば、今も実力都市であるが、今後も、さらに躍進する実力都市を目指すということになり、双方の意見を生かせることになる。

委員

- ・ 「うつのみやネクスト」という表現は、今までに聞いたことのない、とても素敵な言葉だと思う。
- ・ 「実力都市」の表現については、市民からは実感がわからない部分がある。現実なのか、願望なのか、どちらにも取れる表現だと思う。

委員

- ・ 大綱の名称が「第4次宇都宮市行政改革大綱」であり、堅い言葉になっているので、副題はシンプルで、柔らかい表現がいいと思う。例えば、「「うつのみやネクスト」さらなる躍進に向けて」のように。そして、改革の目指すべき姿である基本目標はまた堅い表現として、躍進するためにはどうすればいいのか、それは「共創」であり、「選択・集中」である、という論理構成に違和感はない。

委員

- ・ 大綱のタイトルに1回、副題に2回と、計3回、「宇都宮」が使われていることも踏まえ、副題は、簡潔に「うつのみやネクスト さらなる躍進に向けて」でいいのではないかと思う。

委員

- ・ 大綱の本文中に、「官民の創意工夫」や「官から民」という表現があるが、「官」という言葉からは、行政が上位にあるというイメージを自分は受けてしまう。趣旨は、行政と民間という意味であると思うので、正確に意図を伝えられる表現とした方がいいと思う。

水沼委員（会長）

- ・ 本日の委員意見を踏まえ、事務局は大綱案の修正を進め、市としての最終案を固めること。
- ・ また、事務局は、公表にあわせ、委員それぞれに大綱を送付してほしい。

(3) 行政改革への提言書（案）について 【資料4】

<事務局資料説明>

水沼委員（会長）

- ・ 本日、欠席された委員から事前送付のあった御意見に対する考えを事務局から説明してほしい。

事務局

- ・ 本日、欠席の委員から御提出のあった意見を踏まえ、大綱策定に係る事務局の考えを説明したい。
- ・ 委員からは、選択と集中を進めれば、サービスの量、質、両面で低下が予測されるとともに、共創を進めることで市民の負担増が懸念される。よって、第4次行政改革で縮減した効果額の範囲内で、新たなまちづくりを積極的に実行することを大綱に記載すべきとの御意見をいただいた。
- ・ 基本目標の「選択・集中」については、限りある行政資源で本当に必要な施策・事業を継続的に提供できるよう留意してきたが、一昨年来の厳しい経済不況などの厳しい社会情勢を踏まえ、これまで以上、メリハリのある資源配分が必要となり、資源投入の力点を見直すということを目指している。本件は、大綱の中にも記載しているが、行政の責務として、市民生活の安定に不可欠なサービス、市民福祉の向上に不可欠なサービスを展開するという点に変わりはない。
- ・ また、「共創」については、懇談会の中でも「押し付け型の協働が存在する」という御意見もいただいたが、市民と行政が同じ気持ち・目標を持ち、共にまちを創っていくことを表現したもの。
- ・ 委員から、「改革の効果額の範囲内で」という御意見があったが、これまでの行革においても、改革の効果を生かし、新たな事業の実施や既存の事業の拡充を進めてきており、このことは、今回の4次の改革でも続けていきたい。
- ・ 大綱案の検討にあたり、事務局では、このように考えており、委員からいただいた御意見の趣旨は生かされているものと考えている。

水沼委員（会長）

- ・ 御欠席の委員意見を踏まえ、事務局の考えを説明いただいた。
- ・ ただ今の事務局からの説明も踏まえ、提言書（案）について、御意見・御質問をお願いします。

委員

- ・ 提言書というのはどのような性格の文書なのか。

事務局

- ・ 市に提出する懇談会からの意見の内容を整理したもの、つまり、これまでの懇談会における議論をまとめたものである。

委員

- ・ 大綱案や提言書案に、既に盛り込んでいただいているが、より強調してもらえるのであれば、一点目は、今回の経済危機により、社会経済状況が変化し、市民生活が脅かされると同時に、行政がカバーする範囲・基準が変化しているということ。

- ・ すなわち、厳しい社会経済環境の中では、これからは生活保護費が増大することが見込まれ、これからは削減しようと考えた場合、本来は生活保護を受ければ、何とか自立に向けて動きだせる人を厳しい基準で保護の対象から外してしまうことで、彼らの自立の芽を摘んでしまうかもしれない。よって、税収減を理由に、必要以上に厳しい尺度で対応をしないしてほしいということ。
- ・ 二点目。市民協働を進めることは一つの時代の流れであるし、非常に重要なことであるが、市は市民や地域社会の現状をよく把握してほしいということ。
- ・ すなわち、現在の宇都宮市では、例えば、町内会における様々な活動は、限られた少数の人物が進めていることが多い。このような中で、市の各担当課から、協働事業の依頼が市民・地域にあるとすると、担当課ごとには市民との新しい協働事業を創設できることになるが、地域においては、限られた担い手の下に協働事業実施に係る前年以上の負担が掛かることになる。
- ・ 新しい担い手がなかなか育たず、財政面や活動面での地域の負担が増えている状況の中で、市民協働の名の下に、今まで協働事業を進めてこなかった新たな担当課が、地域の実情を考慮せず、地域社会に進出するという点について、地域は不安を持っている。
- ・ 行政が縦で様々な仕事を回している一方、地域社会では担い手が重層化しており、同じ人が多くの場面で行政と関わり持っている。行政には、この実態をよく踏まえた上で、地域の実情を的確に把握するアンテナ、パイプを持ってほしいと思う。

委員

- ・ 行政改革を進める根本には、「優しさ」や「温かさ」がなくてはならない。提言書の案には、「市民生活の安定」や「市民のために」という文言が既に散りばめられているが、「優しさ」、「温かさ」といった文言も盛り込まれてもいいのではないかと思う。

委員

- ・ 事務局は、懇談会における計5回の論議の結果を尊重しながら、市としての考えを今の段階で精いっぱい提示してくれたと感じている。
- ・ 提言書について、この先の修正は、会長、副会長に一任したい。よろしくお願いします。

水沼委員（会長）

- ・ 提言書の案について、基本的には今回の資料の内容で問題ないということ、また、修正する部分があれば、その修正内容については、私と副会長の中村委員に一任をいただくということの二点。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

6 その他

- ・ 「行政改革推進プラン」の策定について
- ・ 追加意見の受付について
- ・ 議事録の作成について
- ・ 大綱の公表に併せた「提言書」、「行政改革大綱」、「行政改革推進プラン」の配布について

7 閉会